令和６年度
「高校生モニター会議」
会議録

東京都北区総務部区長室

目　　次

１　高校生モニター会議　会議録 １
１．開会 １
２．委嘱状交付 １
３．区長あいさつ ２
４．区関係者紹介 ２
５．Google クラスルーム操作説明・配付物確認 ３
６．自己紹介 ５
７．テーマ説明① ６
８．グループ討議① １１
９．発表① １３
１０．テーマ説明② １４
１１．グループ討議② １６
１２．発表② １６
１３．感想 １９
１４．講評 ２１
１５．閉会 ２４
１６．記念撮影 ２５
２　高校生モニター会議　写真 ２７

１「高校生モニター会議」会議録

○　日　時　令和６年１１月１１日（月）　午後５時から午後７時３０分
○　場　所　北区役所　別館研修室
○　テーマ　「ヤングケアラー支援について」
○　出席者　高校生　６校７名
区長、政策経営部長、子ども未来部長、教育振興部長、
子ども家庭支援センター所長、子ども家庭支援センター職員、
区長室長、区長室職員

１．開　　会

◎区長室長
それでは定刻となりましたので、始めさせていただきます。
本日は、令和６年度高校生モニター会議にご出席いただきましてありがとうございます。本日、司会を務めさせていただきます、区長室長でございます。よろしくお願いいたします。
初めに、皆さんにお願いとお知らせがございます。会議状況の撮影と公開についてです。皆さんには、応募の段階で写真などの提供について同意していただいておりますが、今日皆さんが話し合っている様子ですとか、発表している様子を写真に撮らせていただきます。この写真を各新聞社に提供したり、区のホームページなどに掲載したいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。
また､撮影に対する同意をやっぱり取り下げたいという方がいらっしゃいましたら、区の職員にお声がけください。
また、会議の様子は、ＳＮＳへの掲載は可能でございますが、撮影する場合、ほかの方に迷惑がかからない範囲でお願いいたします。他校の生徒が映り込むこと、会議資料の撮影は禁止といたします。

２．委嘱状交付

◎区長室長
それでは､まず初めに､やまだ区長から皆さんに委嘱状をお渡しいたします｡なお、申し訳ございませんが、お時間の都合上、代表してお一人の方へ、やまだ区長から委嘱状を交付させていただきます。
代表いたしまして、〇〇〇さん、前へお願いいたします。
◎やまだ区長
委嘱状。女子聖学院高等学校、〇〇〇様。あなたを令和６年度北区高校生モニターとして委嘱いたします。令和６年１１月１１日。東京都北区長、やまだ加奈子。

よろしくお願いします。
◎区長室長
ありがとうございました。
それでは、やまだ区長からご挨拶を申し上げます。区長、よろしくお願いいたします。

３．　区長あいさつ

◎やまだ区長
皆さん、こんばんは。
今回、皆さん７名のご応募いただきました。高校生モニターに手を挙げていただき、今日このような形で参加いただきましたこと、心からうれしく思っております。本当にありがとうございます。
いろいろなきっかけで手を挙げていただいたと思いますが、いずれにいたしましても、今回の機会が私たち北区としては若い方々のご意見をしっかりと区政に反映していく大きな取組となっておりますので、ぜひとも皆さん、率直な意見を伺えたらうれしいなと思っております。
どうか今日は短い時間ですが、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

４．　区関係者紹介

◎区長室長
やまだ区長、ありがとうございました。
続きまして、本日の区の出席者を紹介いたします。
改めまして、やまだ区長でございます。
◎やまだ区長
よろしくお願いします。
◎区長室長
政策経営部長でございます。
◎政策経営部長
こんばんは。よろしくお願いします。
◎区長室長
子ども未来部長でございます。
◎子ども未来部長
こんばんは。どうぞよろしくお願いします。
◎区長室長
子ども家庭支援センター所長でございます。
◎子ども家庭支援センター所長
よろしくお願いします。

◎区長室長
　あと１名、教育振興部長が後ほど参ります。
　以上の出席者で、本日の高校生モニター会議を始めさせていただきます。

５．Ｇｏｏｇｌｅクラスルーム操作説明・配付物確認

◎区長室長
　続きまして、本会議で使用しますＧｏｏｇｌｅクラスルーム※１の操作説明と配付物などの確認をさせていただきます。
　Ｇｏｏｇｌｅクラスルームの操作説明に移りますので、区長室の職員より、ご説明いたします。
　では、よろしくお願いします。
◎区長室職員（事務局）
　進行を代わらせていただきました、区長室の〇〇〇と申します。よろしくお願いいたします。
　ここから、Ｇｏｏｇｌｅクラスルームの操作説明に入りますので、今、皆様の目の前にございます端末をご確認ください。
　まず、今、皆様の目の前に置かれている端末ですが、画面がタッチパネル式となっております。文字を入力する際は、下のキーボードをご利用ください。
　それでは、事前にお送りいたしましたＧｏｏｇｌｅクラスルーム、Ｇｏｏｇｌｅスライド※２の操作方法についてという机上にも配付しておりますので、そちらの資料に沿って一緒に操作練習をいたしますので、ご確認ください。
　皆様、ご準備できましたでしょうか。
　こちらの資料の（１）から皆様と一緒に操作いたします。画面に表示されている「授業」と書かれている部分が上にございますので、タッチしてください。今回の研修では、この授業内に配付されている資料を見たり使用したりします。
　それでは、一緒に操作練習をしていきます。「区長室」という部分をタッチして開いていただきまして、資料が幾つか表示されているかと思いますが、見られていますでしょうか。
　これから一緒に開いていきたいと思います。まず、スクロールしていただきまして、「０１、配付物一覧」を押してください。開けましたでしょうか。
　ここで、今回の配付資料を確認いたします。まず、紙面で配付しているものについての説明です。一度、端末ではなく、机の上をご覧ください。
　まず、委嘱状です。皆様の高校のお名前と、ご自身のお名前が入っているかと思います。２点目に、受付でお渡ししました図書カード。そして、３点目に先ほどご案内いたしましたＧｏｏｇｌｅクラスルーム、Ｇｏｏｇｌｅスライドの操作方法について。４点目に、「あなたがあなたらしく毎日を過ごせるように」と書いてあるリーフレット。こちらが緑色と青色のものの２枚ございます。次に、「ヤングケアラーって実は結構身近なのかも」と書いておりますチラシ。最後に、子ども・ティーンズセンターづくりアンケートの計７点でございます。

机上にございますでしょうか。ないものがある方は手を挙げていただいて。大丈夫ですかね。

そうしましたら、続いてＧｏｏｇｌｅクラスルーム上での配付物は、こちらの今開いていただいている配付物一覧。そして、名簿、座席表、次第の４点でございます。今、Ｇｏｏｇｌｅクラスルームで開いております、資料の横の「バツ印」を押してください。もしくは、２度ほどタッチしていただくと閉じると思います。このように、会議中に指定されたファイルを開いてください。

続いて、この後のグループワークや発表で使用するワークシートの練習をしてみたいと思います。皆様の名前が書いてあるシートを１枚ずつ用意しましたので、自分の名前が入っているスライドをタッチして開いてください。開けましたでしょうか。

そうしましたら、「名前を記入してください。」とある下の①の横をタッチしていただきまして、ご自身の名前を入力してみてください。皆さん、入力できましたでしょうか。

それでは、一番上の「令和６年度高校生モニターの授業」というタブをタッチしていただきまして、区長室の授業画面に戻ってください。

次に、このスライドですが複数人で同時入力ができるものでして、この後のグループワークでワークシートに同時入力するタイミングがありますので、次はその練習をしてみようと思います。

ここからは、操作方法説明の紙に書いておりませんので、口頭での聞き取りでお願いいたします。

１班の方は〇〇〇さんのお名前が書いてあるスライド。２班の方は〇〇〇さんのお名前が書いてあるスライドを開いてください。開けましたでしょうか。

先ほどご自身の名前を入力した隣の枠に「できること」と書いてある部分があるので、また①の横をタッチしていただきまして、ご自身の名前を皆さんで入力してみてください。

皆様、同時入力できましたでしょうか。

このような作業を会議で行っていきますので、よろしくお願いいたします。操作しながら分からないことなどがありましたら、皆様の近くに職員がおりますので、遠慮せず声をかけてください。

これで、Ｇｏｏｇｌｅクラスルームの説明を終わらせていただきます。

◎区長室長

皆さん、ちょっと慣れない端末での操作ということですけれども、皆さん、お若いので大丈夫かと思いますが。本当に分からないことを、都度、手を挙げていただいたり、声をかけていただければ職員が行きますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これから会議の進め方とテーマにつきまして説明をいたします。

ここからは子ども家庭支援センター主査が説明をいたします。では、よろしくお願いいたします。

◎子ども家庭支援センター主査

皆さん、こんばんは。

私は、子ども家庭支援センターの〇〇〇と申します。本日は皆さんと様々な意見が

聞けることを楽しみにしてまいりました。約２時間半ですが、どうぞよろしくお願いします。
　まず初めに､本日担当します子ども家庭支援センターの職員を紹介させてください。
　私は、子ども家庭支援センターでヤングケアラーの周知・啓発ですとか、その他事業の担当をしております〇〇〇と申します。よろしくお願いします。
◎子ども家庭支援センター係長
　私は、子ども家庭支援センターで相談チームを担当しております、〇〇〇といいます。よろしくお願いします。
◎ヤングケアラーコーディネーター
　令和６年度からヤングケアラーコーディネーターとして活動しております、〇〇〇と申します。よろしくお願いいたします。
◎子ども家庭支援センター主査
　どうぞ皆様、本日はよろしくお願いします。
　もし会議の途中で何か分からないことがあったり、もし体調が優れないということがあれば、周りの職員に声をかけてください。あと、水分補給もしていただいて構いません。ただ、端末がありますので、必ず飲まないときには蓋を閉めたり、かばんにしまったりということをお願いいたします。
　では、本日のスケジュールなのですが、こちらにお示しのとおりです。もし、皆さん、お手元で資料を確認したいという場合には、先ほどのＧｏｏｇｌｅクラスルームの子ども家庭支援センターというところに同じ資料がＰＤＦで入っております。「Ｒ６高校生モニター説明資料」というものが入っていますので、そちらを手元で見ながらお話を聞いていただいても構いませんので、よろしくお願いします。
　あるところは分かりますか。大丈夫そうですか。前のモニターでも、どちらでも構いません。

６．　自己紹介

◎子ども家庭支援センター主査
　そうしましたら､まず初めに､一番目､自己紹介と役割分担をしようということで､グループ内で１人１分程度、自己紹介をお願いします。お名前、学校、学年、あと一言、何でも今日の意気込みでも、今こんなことにはまっているよ、何でも構いませんので、１人１分程度でお願いします。
　自己紹介が終わりましたら、役割分担をしていただきたいです。司会１名、書記２名、発表者１名なんですが、今日こちらの１班の方、書記２名ではなくて１名で決めてください｡後ほど説明しますが､グループワークを今日は２つ行っていただきます。なので、グループワーク１と２で変更しても構いません。
　最後に、３番目、グループ名ということで、今日ちょっと２班しかないんです。ちょっと楽しく進めたいので､グループ名を考えていただきたいです｡何でもいいです。食べ物でも、キャラクターでも、これが推しだという、何でもいいです。楽しくなるようなグループ名を決めてください。

では、ここから８分程度時間を取ります。４分経った時点でお声がけしますので、その頃にはもう自己紹介が終わって、役割分担に入っていてほしいなと思いますので。
では、どうぞ始めてください。お願いします。

（自己紹介）

◎子ども家庭支援センター主査
４分経ちましたので、役割分担・グループ名に移ってください。

（役割分担・グループ名）

◎子ども家庭支援センター主査
残りがあと１分になります。頑張って決めてください。
では、８分経ちましたので、ちょっと決まったグループ名を聞いてみたいと思います。
では、１班のほうから。
◎高校生モニター（１班）
Ｌｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼で。
◎子ども家庭支援センター主査
Ｌｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼で。「レッツゴー」はカタカナ、英語がいいですか。
◎高校生モニター（１班）
英語で。
◎子ども家庭支援センター主査
Ｌｅｔ‘ｓ　ｇｏが英語で、親子丼は漢字で。
◎高校生モニター（１班）
漢字で。
◎子ども家庭支援センター主査
分かりました。ありがとうございます。
２班は何に決まりましたか。
◎高校生モニター（２班）
ハンギョドンで。
◎子ども家庭支援センター主査
分かりました。ハンギョドンでお願いします。
ありがとうございました。
そうしましたら、本日のテーマ、あと概要説明については、ヤングケアラーコーディネーターから説明させていただきます。

７．　テーマ説明①

◎ヤングケアラーコーディネーター
それでは、皆さん、始めさせていただきます。よろしくお願いします。
そもそも、ヤングケアラーコーディネーターって何というところで、皆さん、緑の事前課題を見ていただいたと思うんですけれども。今年度から私は活動させていただいております。

もともと、埼玉県で、もうちょっと遡れば私もちょうど１６歳の頃に、１６歳の頃から２４歳の頃まで父親と姉のことが課題であって、いわゆるヤングケアラー。そのときはそういう言葉はなかったんですけど。元当事者の視点で、今は支援する、応援する側に回っていますよという軽い紹介から、あなたは何者ですかというところで、今、北区でコーディネーターとして相談の受付から、皆さんにヤングケアラーについて知ってもらうという活動を中心に行っています。そんなお話です。

リーフレットを見ていただきましたかね。それから、あとは啓発動画を見ていただきましたか。さっきちょっとフライングして、「何を見たのかな」と聞いちゃいましたけど、これから皆さんが何を見てきたのかな、それでどういう議論になるのかなと、ものすごく楽しみにしています。後で使いますので、またよろしくお願いいたします。

では、まずはヤングケアラーについて、皆さんで共通認識を１回持ちたいなと思うので、一緒に動画２分４８秒見てみましょう。よろしくお願いします。

（動画視聴）

◎ヤングケアラーコーディネーター

ありがとうございます。

それでは、動画の中にもヤングケアラーといわれる若者・子どもたち、どういった状況、家庭の中でどういった状況に置かれているかというのがあったと思います。こちらにも１０個の例がありますけれども、もちろん、この１０個だけに当てはまるわけではなくて、それぞれの立場、様々なご家庭でいろいろな課題があるということを認識してください。いろいろな形があるということです。これはあくまでも外から見たヤングケアラーの様子であります。

次に、ヤングケアラーについて、ちょっと言葉で説明をして、理解を深めていければなと思うのですけれども。本当につい最近、令和６年６月に、今までヤングケアラーという言葉、特に法律上何かあったわけではなくて、各自治体、自治体って各まち。ここでいうと２３区、東京都２３区で、それぞれがヤングケアラーについて、支援していったり、応援していったりとかということをやっていたのですけれども、やっぱりどうも日本としてばらつきがあるということで、やっぱりヤングケアラーを応援していかなきゃいけないよね、皆さんそうしましょうということで、その法律が初めてつくられたのが６月になります。

ここで定義、ちょっと硬いのですけれども、一緒に見てもらえればなと思うのですけれども。「家族の介護、その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」として、皆さん支援していきましょうねと法律に明記されました。

それから、対象年齢ということで、ヤングケアラーって何歳までをヤングケアラーというのというところなんですけれども、おおむね３０歳未満ということで、少しちょっと幅が広がったかな。

埼玉県で最初にこの法律ができる前は、ヤングケアラーではなくて、ケアラー支援条例というものが、ちょっと法律とは違うんですけれども、ケアラー支援条例というのが埼玉県でできてました。でも、その中では１８歳までがヤングケアラーでという、ちょっとある意味、線引きがされてしまっていたんですけれども。今回の法律によって、法律の制定によって、３０歳未満が若者、ヤングケアラーですよと。状況によっ

ては４０歳未満までも含めますよという、支援を切れ目なく行わなければいけないのですよということが日本の共通課題、共通認識になった。みんな、そうしましょうとなりました。

皆さんに手元にお配りしてある青い大人版のやつですね、ちょっと見ていただければと思います。事前課題としてお渡ししていたのは緑です。青は、大人版は緑と何が違うのというと、開いていただいて、右上に大人たちへのメッセージ、ヤングケアラーとはこうやって関わってくださいね。ちょっと読ませていただきますが、「子どもたちは私たちが思う以上に、家庭のこと、自分がやっていることを伝えるのに慣れていません。誰に何をどうやって伝えたらいいのか。こうした思いを持ちながら家族のケアを担っています。どうか地域でも大人でも、そっと寄り添って、いつか話してもらえる、話せるような環境をつくってみてください」というのを大人へのメッセージとして送ってあります。

今日、話をするのは左側なんですけれども、先ほど１０個ありましたよね。ヤングケアラーっていわゆるこういうご家庭で、こういう課題があって、こういう役割を担っている若者だよ、子どもだよというところなのですけれども。今度は左側、今、青いものの左側は、いわゆる当事者が内側から何を感じていたのか、何を困っているのか、どういったことを抱えているのかという、外と内側の説明です。当事者からの説明になります。

これは私も実際に当事者として、このようなことを感じていました。皆さんちょっと世代が、もう今はヤングケアラーではないので、「あれ。今のヤングケアラーも同じような課題を抱えているのか」と思うかもしれないんですけど、私がやっていたのは２０年前で、２０年前のこと、いわゆる元ヤングケアラー当事者としては、２０年前のことだったんですけれども。この１０年間、１０年経って、２０１４年ぐらいからいろいろな地域でヤングケアラーについて講演活動をするようになったのですけれども、その講演活動をして高校生たちとお話をするときに、悩みって変わっていなかったんですね。なので、今のヤングケアラーもこういった悩みを抱えているということを覚えていていただければなと思います。

まずは家庭内の役割、実際に見ていただいて、左上ぐらいですかね。この女の子の頭の上。家庭内の役割として何か大きな決断をして、「はい。私はヤングケアラーになります」とか「ケアを担います」ということではなくて、その日々の連続の中で当然のように、当たり前のように、家庭内の役割として自分がその役割、その立場になっていくということを経験します。

それから知識の不足ということで、皆さんも多分高校生の時代に、いきなり介護保険のお話とか障害福祉サービス、障害のある方への支援のお話とかって、いきなり舞い込んできたとしても、成年後見とか僕ありましたけれども、判断がつかなかったというか理解ができなかった。数学・国語・理科・社会・英語ではなくて。それと全然違った言葉を耳にして、頭で理解しなきゃいけなかったというところがありました。やっぱり、目の前の状況に追いついていかなかった。

それから、行動に制限があったというのは、先ほど介護保険とか障害のサービスとかというのがあったのですけれども、その支援というか、お手伝いをしなきゃいけな

いときに、いわゆる契約行為って皆さんは何となく聞いたことはありますか。大人じゃないとできないんですよ。でも、家の中では家族の中でケアラーとして、支援者として一定程度の役割を担わなければいけないのに、外に行くと自分は中途半端なお手伝いしかできないというような、すごいもどかしい感じもありました。

それから、健康面の不安、本当に寝れなかったですし、睡眠時間を削るしかない。やっぱり２４時間の中で、ケアしているから今日は２６時間、僕はもらえますみたいのはないじゃないですか。みんな等しく２４時間しかない中で、自分のこともやらなきゃいけない。家族のこともやらなきゃいけない。やっぱり何かを削らなければいけないというので、やっぱり高校時代がすごく多分体力面とか結構充実していて、多分みんなも頑張れちゃうと思うのですけど。ちょっと睡眠時間を削ったというのが一番の思い出として残っています。

あとは相談できないというのも、理解してもらえない。今でこそ、ヤングケアラーという言葉が徐々に浸透してきて広まってきたけれども、やっぱり相手が理解してくれないとなかなか自分のことを話すのも難しいですよね。例えば、テニス部の方いると仰ってましたね。テニスを知らない相手に相談するより、テニスを知っている人に相談しますよね、みたいな簡単な話。ちょっと違うかもしれないけれども、そんな話。やっぱり知っていてもらえる人には相談できるけど、でも当事者で学生、いなくはないけれども、やっぱり少ないんですよね、ヤングケアラーは。そんなに多くないと思うので、なかなか相談できる相手がいなかったし、時間がないというのも、今度は右、反時計回りにいますけれども、時間がないと。

やっぱり自分のための準備もしなきゃいけないじゃないですか。学生であって、自分が将来何をするかということを考えなきゃいけない、準備をしなきゃいけない。そういった時間をやっぱり少しずつ削って、日々の生活を家族の生活を支えていたというのが内側から見ていた、ヤングケアラー当事者として抱えていた悩みになります。

こういった悩みをちょっと共有させてもらいながら、今、東京都北区でヤングケアラーコーディネーターとして活動していて、ちょっと課題が出てきました。そこで、皆さんにお話を聞いていきたいなと思っているのですが。

課題というのは何かというと、これは両者あります。左側が大人の悩み、右側が本人・当事者・若者・子どもたちが抱えていること。大人としては、やっぱり今を支援したい、応援したい、何とかヤングケアラー、若者を支えていきたいという気持ちがあるのですね。大人は動き出しています。私みたいなヤングケアラーコーディネーターという役割が、立場が誕生したのもそうなのですけれども。でも、どうしても家庭内の問題であって、誰かが外から入り込むというのは、なかなか家の中を開けて、玄関を開けて「どうですか」なんてことないですよね、今の時代ね。なかなか分かりにくいということ。

それから、やっぱりいきなり相談していいよと言われても、皆さんはしますかという話で。相談相手って、あなたが何者で、あなたは信頼できる相手で、あなたがどういうアドバイスをしてくれるような立場なのかということを理解して、安心して納得したら相談することができるかもしれないけれども、なかなか言葉としても伝えにくいとかという中で、大人がまだ相談相手としてはうまく機能していないというのも現

実としてあります。片側で本人たちも、私の当事者としての内側から見ていたお話であったとおり、私はヤングケアラーって理解していない、認識していない。もう当然のことのように、父親のケアだったりとか、姉の問題とかということに直面していたので、ことさら、特に何かを伝えることではなくて、もう日々、今日、明日、あさってを迎えるために家庭の中でやらなければいけないというふうに認識をしていました。

あとは、隠したいと頭に思ってしまうかもしれません。家の中のことを外に言うというのは、なかなかしかも実名でというか、匿名ではなくて実名で誰かに相談するというのはちょっと難しいのかなと思っています。

あとは誰かに発信しづらいというのも、どうやって伝えたらいいか、お友達に何か楽しいこととか不安なこととか悩みを相談するのとは違って、ちょっと世代が違う大人に何ていう言葉を、どういった言葉を使っていいのかというのは多分難しいんだと、僕もその当時は思っていました。

そのような中で、ヤングケアラーが相談しやすい環境というのを、やっぱりつくり上げていかないといけないのだなと感じています。先ほど少し触れましたけれども、相談しやすい環境って何だろうと思いました。相談しやすい環境。ということは、やはり皆さんが知っていてもらえる。相手も理解してもらうし、そんなこと知らないよと言われたら相談もできないし。相手が理解してくれるという安心感をベースにして、相談しやすい環境をつくっていきたいなと思っています、このまちで。なので、本当にヤングケアラーのことを多くの人たちに知ってもらいたいなということで、今、活動をフル回転でしています。

実際に、北区でどういったことをやっているのというお話なのですけれども、黄色・青・緑の３種の、皆さんに黄色は今日配ってないんですけど。黄色は何が違うかというと、ルビが振ってあるだけなので、児童館とか公共施設にありますので探してください。リーフレットを中心に小学生・中学生に配って、なかなか高校生に配れていない現状があるのですけれども、これからいろいろなところで広めていければなと思っております。

こういった活動、そこの下にもシンポジウムをやったりという、来月やるのですけれども、なかなか居場所づくりとか、居場所づくりってケアカフェというのをちょっとやってみたりしたのですけれども、実際に中高生に届いているのかなという、なかなかやっていることが届かないというジレンマも抱えていました。右に今日皆さんにお配りしてある、本当にそのヤングケアラーって実は結構身近なのとか、国も本当に動き出しているよということを伝えてはいるのですけれども、なかなか届いているのかなという不安があります。

こうした中で、ヤングケアラーのことを多くの中高生に知ってもらう取組について、大人だけでちょっと限界が見えてきたので、ぜひ今日皆さんのフランクな感じで、もう何でも構いません。本当に聞きたい、聞きたい、聞きたいということになってしまいますけれども、ご意見をいただければと思っています。

２点ですね。皆さんから意見を聞きたいことというのは、まずワーク①として「広がる伝わるヤングケアラーの啓発動画」ということで、意見をいただければと思っています。

２点目に、ここで中高生に響くヤングケアラーのイベントってどういうものが広まっていくのかなということを、また皆さんにお聞きできればなと思っています。
事前説明は以上です。

８．　グループ討議①

◎子ども家庭支援センター主査
そうしましたら、この後、ワーク①と②を皆さんにやっていただきます。
グループで考えて発表しようということで、これからグループワークをしていただきますが、ちょっとその前にお約束というかルールをお伝えします。もう皆さん、ご存じだとは思いますけども。
まず、１番目、他の人の発言は遮らない。
２番目、どんな意見も最後まできちんと聞こう。
３番目、分からないことがあったら、すぐに質問しよう。周りに職員もたくさんおりますので、分からないことがあったらすぐに手を挙げて質問してください。
あと４番目、全員が意見を言えるように心がけようということで、こちらのルールを守って、これからグループワークをお願いします。
グループワーク、２つあります。まず１番目、実施していただいて、まず個人で考える時間を５分程度設けます。その後、グループ内で、皆さんで考えていただく時間が２５分程度、最後に発表という形で、まず１つ目やります。ちょっと休憩を挟みまして､今度また２番目のテーマでグループワークを実施していただくようになります。適宜、こちらから時間でお声がけはしていきますので、よろしくお願いします。
そうしましたら、まず１番目の「広がる伝わるヤングケアラー啓発動画」については子ども家庭支援センター係長から説明いたします。
◎子ども家庭支援センター係長
では早速、皆さんの意見を伺いたいと思っています。
北区ではヤングケアラーのことを広く知ってもらうための動画をつくろうと思っています。これはやっぱり間違ったものじゃない、正しい知識を広めていきたいと思っているのですが、正しい知識って、面白くなかったり、真面目だったり、堅かったりということでなかなか広がっていかないですよね。広がっている動画ってどうかなと思って見たりすると、何かこう面白いみたいな中身だったり、あとキャッチーだったり、ちょっと刺激的な内容だったりというところで、何か伝えていきたいなというものと、ちょっと相反するかなと思っていて、これをどう両立させていいのかなというのを私たち悩んでいて、皆さんのお知恵をいただきたいと思っています。
動画を作ったら、これを小中高校生を対象に、ヤングケアラーの実態調査ということで調査をします。そのときに、調査の前にこの動画を見てもらって、なるほどヤングケアラーってこういうことなんだねというのを正しく理解してもらってから、調査に入りたいと思っています。
もう一つが北区らしい中身の動画にしたいなと思っています。北区らしいって何ということなのですけれど。ピンと来ないと思うので参考までに、近くの自治体で作成

した動画の案内です。左がお隣の埼玉県の川口市さんでも動画を作っていて、どんなのかなと思って見てみたら、川口市はオートレース場があるというところが特徴で、そこでオートレーサーになることを夢見る女子高生が、見た方がいらっしゃりそう。女子高生が主人公にして、ドラマ仕立ての動画を作っていました。もう１か所、板橋区は「絵本のまち板橋」というキャッチフレーズがあって、それで区内にいらっしゃる絵本作家さんにイラストを作ってもらって、それで動画を作成したという特徴がありました。

　というわけで早速なんですが、どんな動画にするといいか、みんなも面白く見てくれているかというところを、まず個人作業で入っていただきたいと思います。あと今回、事前課題で動画を見てくださっているかなと思うので、こんなのが面白かったよとか、勉強になったよというのも、ぜひシェアしていただきたいと思いますので、Ｇｏｏｇｌｅクラスルームの作業シートを開いていただきたいです。開けていますでしょうか。

　ハンギョドンさんたち、大丈夫でしょうか。ハンギョドンチーム、大丈夫、オーケー。Ｌｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼、オーケー。ありがとうございます。

　それでは、５分間の個人で考えようタイムに入ります。それぞれのシートに皆さん自由に書き出してみてください。５分経ったら合図をしますので、それでは始めていただけますでしょうか。よろしくお願いします。

（個人ワーク時間）

◎子ども家庭支援センター係長

　皆様、５分経ちました。まるで試験時間のような集中力と真剣なお顔で取り組んでいただいて、誠にありがとうございます。

　それでは、個人ワークは一旦終了していただいて、この後、１０分・１０分、次の１０分間でハンギョドンさんとＬｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼で、こういうことを考えたよというのも１０分間でシェアしていただきます。また１０分経ったらお知らせしますので、残りの１０分ではどんな発表をしようかねという作業に移ってもらいます。

　では、最初の１０分でシェアタイムになりますので、Ｌｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼、ハンギョドン、ではよろしくお願いします。では、入ってください。

（グループ討議）

◎子ども家庭支援センター係長

　では、そろそろ発表用のシートに、発表用のまとめをしたいと思います。

　では、残りの１０分で発表内容をまとめていただきたいと思います。では、それぞれお願いします。

（発表用まとめタイム）

９．　発表①

◎子ども家庭支援センター係長

では、そろそろ皆様、お時間でございます。時間がきました。

では、発表タイムに入りたいと思いますが、Ｌｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼とハンギョドンと、どっちから先にやりたいですか。

では、Ｌｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼の皆様前のほうにみんなで出てもらって、どうぞこの青いモニター会議の下に来てもらって。

発表される方のお名前と学校名と学年と教えていただいて、発表していただけますでしょうか。お願いします。

◎高校生モニター（チームＬｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼）

〇〇〇です。桜丘高等学校の高校２年生です。

私たちが事前課題で見つけたお勧めの動画は、ヤングケアラーについてのドキュメンタリーの動画と、こども家庭庁が出しているちょっと短い動画が私たちが見つけたお薦めの動画です。

「北区らしいヤングケアラーの啓発動画ってどんな動画？」なのですけど、まず私たちは北区のヤングケアラーのオリジナルキャラクターを作成して、そのテーマがソメイヨシノだったり、しぶさわくんとか。

まず、ヤングケアラーだと思ってない学生に焦点を当てて、キャラクターがヤングケアラーに気づいてない学生の家だったり、買い物している途中の商店街とか、神社とか、公園とかで「ちょっと待った！」と言って、そのヤングケアラーを助ける。助けに行くそのキャラクターがヤングケアラーの子を助けに行って、助けつつ動画でヤングケアラーの説明をするというのと、あと、ヤングケアラーだと気づいているけど、相談できてないという学生にも焦点を当てて、その場合は、またオリジナルキャラクターが駆けてきて、支援をする相談所の紹介を一緒に案内していく動画を私たちは考えました。

以上です。

◎子ども家庭支援センター係長

ありがとうございました。「ちょっと待った！」のところが、とても印象的でした。ありがとうございました。お戻りください。

それでは、お待たせしました。ハンギョドンの皆様、バックボードの前においでください。

代表して発表される方のお名前と学校名と学年を教えてください。お願いします。

◎高校生モニター（チームハンギョドン）

１個目で発表させてもらいます、〇〇〇です。東京成徳大学高等学校の高校２年生です。お願いします。

私たちが話した中で、見つけたお薦めの動画というのは、まず１個がストーリー仕立て、ドラマ風になっているもので、やっぱりドラマとかストーリーになってきたほうが頭に入ったり、実際に感情移入したりして見れるという意見がありました。

また、実体験のインタビュー。これは、やはり実際にやっている人が思っている考

えだったりというのを知れるので、そういった動画はやはり啓発動画というのに考えるといいのかなと思いました。

北区らしい動画を作る上で、私たちは日常を描いた動画というのを提案したいと思います。北区らしいとは何があるのだろうと思ったときに、逆にもう何もない日常がいいのではないかとなりまして、その日常をお花見とか、桜とかでちょっと有名な飛鳥山公園とかでドラマ風にして撮影したらいいのではないかなと思いました。

ストーリーとしましては、主人公がいて、主人公が普通だと思っていることは実際は普通じゃなかったよということを、そういった周りの友達とかそういう人間関係を通じて伝えていたり、また、飛鳥山公園とか毎年お花見で人がいっぱいになると思うのですけど、ヤングケアラーの人とかはそういうのが忙しくてあんまり行ける機会はないと思うんですよ。でも、それを周りの人とか手助けとか、相談したり支援を受けたりとかそういうことができることによって、北区の観光地も十分に時間を取って楽しめるようになるというストーリーです。

出演としましては、北区出身の芸能人さんとかにも出演していただいて、私たちがちょっと調べたのは深田恭子さんがいらっしゃいまして。また、北区国立印刷局があるということなので、ヤングケアラーがお買い物をしている時とかに、ちょっと新紙幣の渋沢さんにピントを当てて、そこを拡大して、ちらっと見せてもらえれば、より北区だよというのをアピールできるのではないかなと思います。ちょっと右下のほうに、国立印刷局とか文字を入れていただいて。

私たちはこんな提案をしたいと思います。これで終わります。

◎子ども家庭支援センター係長

ハンギョドンさん、ありがとうございました。新紙幣が出てくる、素敵ですね。ありがとうございました。では、お席にお戻りください。

発表、ありがとうございました。

それでは、休憩に入りたいと思います。どうぞ皆さん、お茶を飲んだり、ティーブレイクに充ててください。正面の時計で、ちょっと短いんですが６時３０分に再開したいと思いますので、少しお休みしてください。お願いします。

（休憩）

◎子ども家庭支援センター係長

お休みの時間は短いもので、もう終わってしまいました。ということで、後半を始めたいと思います。

では、ご準備をお願いします。

１０．　テーマ説明②

◎ヤングケアラーコーディネーター

それでは皆さん、後半もよろしくお願いします。

Ｌｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼さんはまだ頑張れそうですか。

◎高校生モニター（チームＬｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼）
　はい！
◎ヤングケアラーコーディネーター
ハンギョドンさんは。
◎高校生モニター（チームハンギョドン）
　まあまあまあ！
◎ヤングケアラーコーディネーター
　引き続き、お願いします。
　それでは、後半戦、ワーク②です。先ほどは啓発動画を使って広げていきたいというお話だったのですけれども、今度は実際に対面で、もちろんその啓発、知っていただくということもそうなのですけれども、実際に、もし当事者の方がいれば相談を受けていきたいなということで、対面のイベントというのを実は今年の６月２２日、場所は東洋大学赤羽台キャンパスで開催したんですね。東洋大学生にも参加してもらいながら、いろいろなコーナーをつくったり、こちらにもありますけれども、実際にケアを学んでみよう。ケアラーってどういう存在なのというところから、ちょっと面白企画ではないですけれども、東洋大学のキャンパスツアーを織り交ぜてりみたり、実際自分のために、なかなかヤングケアラーって自分のために時間を使えないというところがあるので、ちょっとお勉強したりとか、自分のために誰かに相談してみたり、自分のために時間を使ってリラックスをしてみたりという企画を提案してみたというか、やってみました。
　右側が配ったチラシなんですけれども、ケアカフェ、ちょっとこれ何となく覚えていてくださいね。ケアカフェｉｎ東洋大学ｆｏｒヤングケアラーということで、これは主に北区にある都立の高校の皆さん向けに周知をして、あとは広くは北区のＸ（エックス）を使ったりとかということで周知をしました。
　このような様子ですね。結構大学生に飾りとかしてもらって、本当に楽しめそうだな、本当にイベントとしては作り込みはある程度うまくいったかなとは思っているのですが、チラシを見ていただいたときに、イベント名にｆｏｒヤングケアラーとありましたよね。なので、実際は当事者じゃないと参加できないのではないのと思わせてしまったり、あとは開催日も土曜日に実施したのですけれども、実際にケアラー、ヤングケアラーの若者・子どもたちが、実際にケアをしながらそういった自分の時間を土曜日に参加できるのか。それから、ヤングケアラーって先ほどもなかなか自分での気づきというのがないですよというお話をしましたけれども、そもそも参加しないですよね。
　正直言うと参加者が少なかったというのが現状なんですね。せっかくのイベントなので、こういったことを多くの中高生にヤングケアラーのことを知ってもらいたいなということで、今後はもっともっと対面でイベントを大きくしていきたいなと思っています。参加者を増やしていきたいなと思っています。
　ちなみに戻りますが、私どこかに隠されているの、わかりましたか？いましたか？ちょっと違うじゃないと思われますね。すみません、ちょっと進みます。
　皆さんに考えていただきたいのは、まずさっきのケアカフェというのがイメージで

きて、実際に行動、行こうという気持ちになるようなものだったのかというところもちょっと振り返りたくて。なので、イベント名、それからどういった場所でやったほうがいいのか、そしてどういったＰＲ方法をすれば中高生の皆さんに届くのかということを教えてください。

それから、内容も先ほどキャンパスツアーとかいろいろありますよ、相談ブースとか、お勉強ブースとか、いろいろつくってみたのですけれども、どういう内容であればちょっと行ってみようかな、ヤングケアラーというその問題もそうですけれども、ちょっと参加してみようと思えるものを教えてください。よろしくお願いいたします。

１１．グループ討議②

◎子ども家庭支援センター係長

では、先ほどと同じように、まず５分程度個人で入力をお願いします。個人用のシートを開いていただいて、ワーク②に入力をお願いします。

では、始めてください。

一応、対象はヤングケアラーだけではなくて、それ以外の方も対象としたイベントにしたいなと思っているので、その辺りをちょっと念頭にお願いします。

残り、あと１分程度です。

（個人ワーク時間）

◎子ども家庭支援センター係長

では、５分経ちましたので、もし入力できていたら、そろそろほかのグループ内のメンバー同士で情報共有をお願いします。

ここから１０分計りますので、１０分程度で情報共有をしてください。

（グループ討議）

◎子ども家庭支援センター係長

そろそろ１０分経ちますので、発表用のシートにまとめる作業に移れる場合にはどんどん移っていってください。今、１８時５０分なのですけれども、あと１０分、１９時になりましたら、また発表のほうに移りたいと思いますので、あと１０分で皆さん頑張ってまとめの作業をお願いします。

（発表用まとめタイム）

◎子ども家庭支援センター係長

あと３分を切りました。大丈夫でしょうか。あと２分半くらいになっていますので。

お時間でございます。皆様、ありがとうございます。

１２．発表②

◎子ども家庭支援センター係長

それでは、発表タイムです。発表、どうしますか。

今度は、Ｌｅｔ‘ｓ ｇｏ親子丼からご指名がございますので。

では、ハンギョドン様、前のほうへお願いします。

◎高校生モニター（チームハンギョドン）
　女子聖学院高等学校の高校１年生の〇〇〇です。
　私たちのチームハンギョドンが考えたイベントとしては、地域の文化祭ｉｎ〇〇ということで、私たちが考えたのは、もちろん北区のイベントではあると思うのですけど、できることならほかの区とかと協力したりして、その地域のほかの区とかと協力してできる形が一番いいなと考えました。
　場所とＰＲ方法なのですけど、私たちが考えたのはイベント名にもあるように、文化祭だったりお祭りという部分で、ヤングケアラーだったり相談という文言を全面に押し出し過ぎないということが、多くの人の集客につながると考えました。
　そのため、屋外と屋内が並列している場所、例で言うと、学校だったり大学などを借りてイベントを行うのがいいかなと思って。ヤングケアラーを相談したりする場所は、イベントの一角につくるのがいいかなと考えました。
　そして、ＰＲ方法なのですけど、先ほどのお話でケアカフェはＸ（エックス）でＰＲをしたと仰っていたと思うんですけど、高校生の私たちの意見としてはＩｎｓｔａｇｒａｍが一番ＰＲ方法としてはいいかなと思うのと、一番使うし、一番見るという部分で、Ｉｎｓｔａｇｒａｍを活用するのがいいかなと思いました。ＳＮＳですね。ＴｉｋＴｏｋだったり、インスタだったりという部分が、中高生を集客する部分では一番拡散しやすいのかなと考えました。
　そして、学校にパンフレットを配付するという意見なんですけど、公立の学校だったら、特にその区のイベントというのは一番拡散しやすいかなと考えて、学校にパンフレットを配付するという意見が出ました。
　そして、内容なんですけど、先ほども言ったように、文化祭というお祭りとか、そういう部分を前面に押し出すことによって、ヤングケアラーというふうに自覚していない人たちを集客できるかなと考えました。
　そして、肝心なヤングケアラーを認識してもらうという点で、私たちが考えたのはゲームだったり、クイズだったり、スタンプラリーだったりというので、そこの内容にヤングケアラーについて組み込むことで、ヤングケアラーじゃない人たちが参加してくれたときに、もしかしたらこういう場合だったらヤングケアラーに該当するのかもというところを気づかせる点でいいのかなと思いました。
　全体的にいうと、まず集客することを目的にして、その中の一角でヤングケアラーだったり、相談する施設があるよということを拡散するといいのかなと思いました。
　そして、私たちが考えた内容としては出店だったり、お祭りとか、食事があることによって参加したいなという気持ちになるし､お祭りとか文化祭ということをすると、中高生の人たちが来てくれるのかなと考えました。そして、出店なんですけど、そこで北区を入れたいなという点で、北区の食品店だったり、お店に出店の依頼をして出店を出してもらうことによって、それを目的として来てくれる人も増えるのかなと思いました。
　そして、相談できる相手をつくれることが大事だなと私たちの班では意見が出て、そこでフィーリングカップルの様式を参考にすればいいのかなと思って。フィーリングカップルというのは、受付をする際に番号の紙を配って、その中で文化祭というイ

ベントの中で、同じ番号の人を探すという点で、全く知らない人と話す機会をつくるきっかけになれればいいかなということで、フィーリングカップルの様式を参考にすることがいいかなと思いました。

まとめとしては、私たちはまず集客することを第一優先としたときに、ヤングケアラーだったり相談するということをあまり前面に押し出し過ぎないことによって、多くの中高生の人たちが来てくれるのかなと思うし、それに付随して大人の人が来てくれることによって、ヤングケアラーってどういう状況なのかということをまず広めることにつながるのかなと思い、このイベントを提案したいと思います。

終わりにします。ありがとうございました。

◎子ども家庭支援センター係長

ありがとうございました。ヤングケアラーという言葉は前面に出さないけれども、しっかり爪痕を残して、そして交流も自然にできるというプラン。どうもありがとうございます。どうぞ、お戻りください。

では、お待たせしました。Ｌｅｔ‘ｓ ｇｏ親子丼。前へ、どうぞ。

◎高校生モニター（チームＬｅｔ‘ｓ ｇｏ親子丼）

引き続き、先ほどのワーク①で発表した〇〇〇です。

私たちが考えたヤングケアラーイベントは、様々なイベント名を出したんですけど、私たちが一つに絞ったのは、「知ろう・つながろう・考えよう・誰でも参加可能ヤングケアラー」というイベント名です。

場所は自然に人が寄ってくるところで、例えば飛鳥山で行われているお祭りとか、地域のお祭りとかで実施しようと考えています。

ＰＲ方法はやはり中高生ということで、ＳＮＳをもうフル活用していくということで、ＴｉｋＴｏｋとかＩｎｓｔａｇｒａｍでＰＲをしていきます。ほかにも中高生だけでなくても公共の掲示板によっていろいろな人に見てもらえると思い、私たちはこのＰＲ方法を考えました。

内容としては、北区内で行われている祭りでのイベントで、ヤングケアラーのブースを出します。このブースでは、たくさんの人にヤングケアラーについて知ってもらう機会をつくろうと思っています。例えば、小さい子とか小学生、中学生とかだったら、くるくる回したりめくったりして、めくったりするとヤングケアラーについて知れる面白い掲示を作ったり、ヤングケアラーについてのクイズを実施して、例えば全問正解すると豪華景品が当たるかもとか。参加するだけでお菓子がもらえますとか、そういうのでゲーム感覚で楽しい感じで知ることができたらいいなと思っています。ちゃんとそのゲームの終了には、先ほどもらったヤングケアラーの冊子だったり、絵本とか漫画を出すことによって、例えば、通信教育の冊子とかでも何か漫画があるとそれだけ見ちゃうというのがあると思うので、そういう感じで絵本とか漫画によって、そのヤングケアラーを知ってもらえる機会を持てたらなと私たちは思っています。

以上です。

◎子ども家庭支援センター係長

ありがとうございました。楽しさをちりばめた中に、大事なことを気がつけば学べているという仕組みをご紹介いただきました。ありがとうございました。

では、チームハンギョドン、それからＬｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼、ありがとうございました。

１３．　感想

◎子ども家庭支援センター主査

ありがとうございました。そうしましたら、最後にということで、参加してみて今度は皆さんにちょっと今日の感想をひと言ずつ、お一人ずつ、ちょっとおっしゃっていただきたいなと思っております。

北区のヤングケアラー支援、「こんなんじゃ駄目だよ」「こうしたほうがいいよ」とか、そういった意見もどしどし受け付けておりますので、ひと言、お名前、学校名、学年とともにお願いします。

どうしますか。どちらからいきますか。ハンギョドンか親子丼か。どうぞ、どうぞみたいになっていますけど。どうぞ、どうぞ。じゃんけんしましょう、どなたか。

じゃんけんで勝ったチームからいきましょう。

◎子ども家庭支援センター主査

じゃあ、Ｌｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼からいきましょう。勝ったチームからです。その場で立ってお願いします。

◎高校生モニター（チームＬｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼）

女子聖学院高等学校、高１の〇〇〇です。

今日、この場に来るまでヤングケアラーについて全く知らなかったのですが、もしかしたら自分のクラスメイトも、こういう大変というか、ヤングケアラーの子がいるかもしれないというふうに思い、今日この場に来てよかったなとすごく思いました。ありがとうございました。

◎高校生モニター（チームＬｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼）

桜丘高等学校２年の〇〇〇です。

私は、ヤングケアラーというのはニュースとかでも結構見たりして、なんかこういうのがあるんだというぐらいにしか思ってなくて。でも、こういう人がいるだけで私にはできることないだろうなって、どこかちょっと他人ごとのように思っていた部分もあったのですけど、今回、高校生モニターに参加して、私もこういうアイデア出しとかで、これに参加することによって誰かを救えるかもしれないとか、もっとヤングケアラーについて理解を深められたなと思う時間でした。ありがとうございました。

◎高校生モニター（チームＬｅｔ‘ｓ　ｇｏ親子丼）

東京科学大学附属科学技術高等学校の２年、〇〇〇です。

今回、ヤングケアラーについて事前に調べて、たくさんのことを知れたのですけど、こんなことがヤングケアラーに含まれる内容なんだとか、いろいろな気づきがあって。あと、今回こうやって話すことで、さらにヤングケアラーについて知れたので、やっぱりこういう内容を触れるのは友達とは難しいかもしれないのですけど、話す機会とか設けることで、さらにヤングケアラーについて知れるのかなと思いました。ありがとうございました。

◎高校生モニター（チームハンギョドン）
　女子聖学院高等学校の高校１年生、〇〇〇です。
　私は、今回こうやって全く知らない初対面の同じ高校生の人たちと意見を交わすという場に来るのが初めてだったので、それも初めての体験だったし、こうやってイベントだったり、ＰＲしたり、区の人たちに物事を伝えるって本当に大変なんだなということに気づいたし、そういう企画を考えるということを自分がする立場になかったので、改めてこうやって意見をみんなで交わすという機会に参加できたことが本当に貴重な体験だったと思います。すごく楽しい時間でした。ありがとうございました。
◎高校生モニター（チームハンギョドン）
　東京成徳大学高等学校２年の〇〇〇です。
　今日は、ここに参加して何か自分たちが意見を話し合っているときとか、発表しているときに、何か大人の皆さんが、意見を言ったときにすごいリアクションとか「あー」となったりとか、めちゃくちゃパソコンカタカタしている音とか聞こえて。実際にこういう区の方と関われて、自分たちが言っていることを聞いてもらえているというのが、すごい今回参加してよかったなとすごく思いました。本当になかなかできない体験だと思うので、とても楽しかったのと、あとは、他校の人というのが関わりとかがあまりないので、他校の同年代と話せて楽しかったです。ありがとうございました。
◎高校生モニター（チームハンギョドン）
　成立学園高等学校２年の〇〇〇です。
　私は、今回ヤングケアラーについてたくさん考えてみて、私が今まで当たり前のように放課後友達と帰って遊んだりとかしていたことが当たり前じゃないというのも知ることができました。今回のモニター会議で、私たちの意見が少しでもそういう人たちの役に立てるようだったらうれしいです。ありがとうございました。
◎高校生モニター（チームハンギョドン）
　本郷高等学校１年の〇〇〇です。
　こういう機会、僕も参加するのが初めてだったんですけど、まずこういう企画を用意してくださった区長をはじめとした様々な北区の関係者の皆様、ありがとうございます。
　やっぱり、そうですね。やっぱり自分の中で考えてしまうというか、こうやって話すというのはすごい大切なことなんですけど、実際問題として手軽にできるかと言われたらそういうわけじゃあまりないですよね。それで、なんていうかこういう行政のサポートに、こういう高校生の意見を反映させてもらえるのはすごいありがたいことだと思いますし、それでどんどん救われる人がいればいいなとは思います。
　そうですね。今日を通して僕もこういった視点を得ることができたので、やっぱり様々な問題に対して、これから興味を持っていこうと考えていこうと思いました。
　本日はありがとうございました。

◎子ども家庭支援センター主査
　皆さん、ありがとうございました。
　私なんかのコメントよりもずっとずっとすばらしい皆さんの感想で。もう本当にすごいなとしか言葉が出てこないのですけども、今日皆さんからいただいたご意見、特に動画につきましては、来年度作成することを考えております。ですので、来年度作成したあかつきには、もちろん北区のホームページですとかいろいろなところで周知しますので、その際にはぜひ見ていただいて、お友達とかにも「これ、つくるのに私たちの意見を反映されているんだよ」ということで、ぜひぜひ拡散していただきたいなと思っております。
　ちょっと深田恭子は難しいかもしれないですけれども、でもちょっと桜とかしぶさわくんとか、頑張れるところは頑張りますので、本当にありがとうございました。
　イベントについても、今年度、もしできれば今年度ですけども、こちらもやはり来年度、お祭りだったりとか、いただいた意見を基にちょっと企画を練っていきたいなと思っておりますので、本日は本当にありがとうございました。
　あと、今日、ヤングケアラーコーディネーターがいらっしゃっていますので、もし終了後とかちょっと聞いてみたいなとか質問があれば、終わった後こちらに残っておりますので、ぜひ来ていただいて直接お話ししていただければと思いますので。本日はありがとうございました。
　では、区長室にお返しします。

１４．　講評

◎区長室長
　皆さん、すばらしい発表をありがとうございました。
　本当に会議に皆さん参加して、もっとヤングケアラーということが身近に思えたのかなと思います。皆さん、今日の会議に出席して、こういうことを話したんだよということをぜひ学校に持ち帰っていただいて、学校でも、北区でこういう高校生モニター会議というのをやっているというのをどんどん宣伝していってください。自分にとって、この時間というのはすごく有意義だったということをお話しいただければ、どんどん皆さんの高校にも広まっていくのではないかなと思います。本当にありがとうございました。
　それでは、皆さんの発表を聞きました、区の出席者から感想をいただきたいと思います。
　まず、政策経営部長からお願いいたします。
◎政策経営部長
　皆さん、２時間半ぐらいの時間でしたけれども、ありがとうございました。
　まず、高校生の皆さん、本当に普段勉強に限らずプライベートも忙しいと思います。そういう忙しい中、放課後の貴重な時間を区のこの事業に参加していただいて、ぜひ意見を言おうと思っていただいたことを、本当にまずもって感謝したいと思います。ありがとうございます。

皆さんの感想を聞いていて、このいっときの時間で得るものがあって、将来の自分に何か役立てるようなことがある、そんなような時間だったのだとしたら、区も本当にうれしく思いますので、そこは本当に皆さん、今回のこの時間、本当に区のためにありがとうございましたということをここで申し上げたいと思います。

今回、ヤングケアラーということでご参加いただきましたけれども、自分もそんなに詳しいわけではないのですけれども、いろいろ調べていく中で、海外ではかなり昔、それこそ１９８０年代の頃からこういうヤングケアラーという言葉があったとありました。日本では、もちろん最近、いろいろと言われるようになりましたけれども、中にはそのヤングケアラーということで、先ほどもコーディネーターの方からいろいろと課題等ありましたけれども、学業の問題ですとか、友人関係の問題ですとか、健康の問題とかいろいろあったのですけれども、中にはそういったところに対して問題だと思ってない子たちもいるんだそうです。そういったところもきちんとこなしながら、なおかつケアをしていると、そういった子たちもいるということで。

そういった子たちに対して、やっぱりどういうところに気づいてあげるべきなのかというときに、やっぱりいつでもそばにいるですとか、相談相手になるですとか、とにかく身近なところで、いつも気にかけているよというような皆さん方の行動ということも、当事者にとって非常に力強い存在になるのではないかなと思っています。

今回のことでいろいろと勉強もされたでしょうし、知識も深まったようなところもあるかと思いますけれども、そういったところを今回動画ですとか、イベントの企画とかも考えてもらいましたけれども、やはりそういうところで少しでも多くの方に広めて知っていただくということが非常に大事なことだと思いますので、そういったところも少し頭に置いておきながら、これからの学生生活を過ごしていただければと思います。

今日は本当にありがとうございました。

◎区長室長

それでは、子ども未来部長、お願いいたします。

◎子ども未来部長

まずは、今、政策経営部長からもありましたけれども、今日は本当に参加していただいてありがとうございます。そして、本当に初めて会う方たちだったと思うのですけれども、そんな中でいろいろ話合いをしてくれて、私たちも本当に参考になる意見をたくさん聞かせていただきありがとうございます。

感想の中で、大人が意見を聞いてくれてちょっと新鮮だったみたいなコメントとかもいただきましたけど。皆さん、北区って、今年の４月から『北区子どもの権利と幸せに関する条例』というのができたのですけど、このことは知っていますか。知らない方は家に帰ってからネットとかで見てもらえればと思うのですけど、２年間かけて、なるべく子どもたちの意見を聞き、尊重することを大切にしながらつくった条例です。

その中に、大切な子どもの権利というので１１個の権利を掲げています。その１番目に「自分の意見、考え、気持ち等を表明し及びそれは尊重されること」、これを１番目に挙げています。どれも大切な権利ではあるのですけども、今日も皆さんに発表していただいたのって、この権利を保障する１つの機会だったかなと思っています。

なので、これから日常生活、高校生活に戻ったときも、ぜひ皆さん、自分の考えをいろいろな場面で発信してほしいなと思います。
　区としても、今日はヤングケアラーというテーマでいろいろお話を伺ったのですけど、いただいた意見を参考にしっかり事業を進めていこうと思っておりますので、これからもいろいろな場面でご協力いただけたらなと思います。
　今日は本当にありがとうございました。
◎区長室長
　では、続いて、子ども家庭支援センター所長、お願いします。
◎子ども家庭支援センター所長
　改めまして、皆さん、本当に遅くまでありがとうございました。とても参考になりました。
　今日、初めて会った仲間とこれだけいろいろな活発な議論をされて、しかも台本なしで。我々、結構台本を揃えているのですけど、台本なしであの場で発表されるというのは、ものすごいことだなと感動して拝聴させていただきました。自分も台本なしでしっかり発言しなくてはなと、身につまされた思いです。
　そうですね。いただいたご意見の中で、私、本当に心強いなと改めて思っているのは、ここにいる皆さんがまずヤングケアラーの理解者になっていただいたということがすごく大事なことでして。
　今、自分の身にも、お友達にもそういった環境がないかもしれないけれども、これから、先ほどの職員のプレゼンにもありましたけれども、３０歳ぐらいまではヤングケアラーなので、やっぱり身近な人がそういうときにまた声をかけていただくとか、区に、行政につないでいただける仲間がここに増えたということが本当に感謝です。
　いろいろな意見をいただきました。フィーリングカップルという言葉を知っていることにちょっと感動したりとか、いろいろな気づきをいただいていますけれども、いただいたご意見を本当に大事に、いろいろな企画につないでいきたいと思います。
　それから、区のほうとしては２つ目のお題目にあったイベント、実施をしていきます。なるべく皆さんに届くように発信していきたいなと考えていますので、お時間がもしあればぜひ参加していただきたいと思っています。
　これからも皆さん自身のアンテナ、感度を際立たせながら北区と密な連携を図っていければいいなと思っていますので、またこうした企画にぜひ奮ってご参加いただきたいのと、周りのお友達にも結構いい企画だったよということで発信していただけるとありがたいです。
　引き続き、高校生モニター会議もよろしくお願いします。
　以上です。
◎区長室長
　それでは、冒頭でご紹介はしていないのですが、教育振興部長からお願いいたします。
◎教育振興部長
　皆さん、こんばんは。教育振興部長です。ふだんの仕事は、公立の小中学校を受け持っている仕事をしているのですけれども、今日、学生さんがいらっしゃるというこ

とでお邪魔させていただきました。
　聞かせていただいてすごく面白かったです。どなたかが、カチカチパソコンを打って聞いてくれているんだという話をしてくれましたけれども、ぜひ皆さんの意見、僕らすごい聞かせていただきたいんです。高校生になると、高校生と区役所がつながっている場所が少なくなってしまいます。公立中学校の卒業だったら、学校の先生だったり、僕も隠れたところにいるので人伝でグルっと回って意見を聞いているんですけど、直接、皆さんの意見を聞くタイミングがないので、ぜひこういう機会に参加していただきたいなと思っています。
　僕らのほうも、皆さんに刺さる企画とか、刺さる動画をつくらなくちゃいけないのですけど、何をやったら刺さるのか正直よく分からなくて、ＴｉｋＴｏｋ、多分区役所メンバーは誰も使ってない。使っていますか。役所って使ってないんですよ。せいぜい、インスタぐらいで。ただやっぱり、今日の話を聞いてみんな、やっぱりＴｉｋＴｏｋかねと、区役所側は多分ちょっと思ったような気がします。そういう意見、いろいろ言っていただければ僕らも動けるところはどんどん動いていきたいと思いますので、引き続き、何かこういう機会以外でも、どんどんぶち込んでもらえればうれしいなと思いますので、よろしくお願いいたします。
　今日はありがとうございました。

１５．閉　　会

◎区長室長
　それでは最後に、やまだ区長から感想と最後の締めのご挨拶までお願いいたします。
◎やまだ区長
　皆さん、遅くまで本当に貴重なお時間、ありがとうございました。
　本当に楽しかったですね。皆さんの率直な澄んだ心が出たなという本当にすばらしいご意見をたくさんいただきました。これまで各部長、課長、お話がありましたとおり、これからの取組の中で確実に反映していきますので、ぜひこの後も見守っていただき、関わっていただきたいなと思っています。
　私からは３つお願いがあります。
　１つは、今回、テーマとしてはヤングケアラーについてということで、皆さんにご意見をいただいたり、考えていただきました。なので、ぜひとも同世代の中の１番の理解者として、ぜひこれから多くのところで周知活動というか、こういうことを経験して、こういったことがあるのを知っていると、関わっていただく方々を広めていただきたいと思っています。ぜひお願いします。
　今日の取組は、明後日、毎月記者会見をやっているんですけど、記者会見の中でも取組について、ヤングケアラーの取組について私も話します。皆さんがこういった場で意見をもらって、それを今後活用させていただいて、こんな取組をしますよということも話したいと思いますので、よかったら見ていただきたいなと思います。
　２つ目は、やはりヤングケアラーの取組って、自分とはまた違う、自身のこともありますけども、やっぱり自分たちが考えている自分たちのためのことだけではなくて、

誰かの人のためになること、この取組をぜひ今日のモニター会議でいろいろ感じていただいたことを糧にして、取り組んでいただきたいなと思います。人間の幸せって、自分の欲しいものを自分の手に入れるだけよりも、誰かが喜んでくれることを自分たちが何かをして、人が喜んでくれることのほうが喜びとしては大きいと脳科学では言われています。ヤングケアラー、ご自身で経験されている方もいるかもしれない。ご自身の経験を基にして、同じような苦労をされている方々に手を差し伸べる、そんな取組に今回の会議がつながっていけばいいなというのが２つ目。

最後はやはり、私たち行政として区政に関わっていただきたい。「政治って何」もう本当に、皆さん、選挙権もう間近ですよね。皆さんのこういった取組がまさに私は政治だと思っています。皆さんの感じたこと、思ったこと、必要だと思うことを素直に届けていただく。これが政治です。なので、堅苦しいことを抜きにして、思ったこと感じたことが必要であることは、いろいろな場面で主張していただきたい。私たちはそういう場面を多くつくっていきたいと思っておりますので、こんな場面をつくってほしいという提案も含めて、ぜひ行政に、そして政治に関わっていただくことをお願いしたいなと思っています。

皆様の思い、いつでも待っています。どうぞよろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

◎区長室長

ありがとうございました。

それでは、名残惜しいですが、ただいまをもちまして、令和６年度高校生モニター会議を終了させていただきます。皆様長時間にわたり、お疲れ様でした。

１６．　記念撮影

◎区長室長

最後に記念撮影を行います。その前に皆さんに２点、お願いがございます。

１点目です。机上に配付の子ども・ティーンズセンターづくりアンケートというアンケートを配付させていただいております。こちらに記載のＱＲコードを読み取りまして、回答のご協力をお願いいたします。詳しくは用紙のほうをご覧いただけたらと思います。

それから２点目のお願いです。本日の資料をデータで欲しいという方がいらっしゃいましたら、出口で職員にお声がけください。資料はメールでお送りいたしますので、職員にメールアドレスをお伝えいただければと思います。

それでは区長と一緒に記念撮影を行いたいと思います。ちょっと撮影の準備をしますので、少しお待ちください。

それでは、名残惜しいですが、ただいまをもちまして、令和６年度高校生モニター会議を終了させていただきます。皆様、長時間にわたりお疲れさまでした。ありがとうございます。

（撮影）

＜用語について＞

※１　Ｇｏｏｇｌｅクラスルーム

　Ｇｏｏｇｌｅが学校向けに開発したWebサービスの一つであり、課題の作成、配付、採点を行うことができるツール

※２　Ｇｏｏｇｌｅスライド

　Ｇｏｏｇｌｅが提供するオンラインのプレゼンテーション作成ツール

２「高校生モニター会議」写真

令和６年度「高校生モニター会議」の様子

グループ討議の様子（チーム Let’s go 親子丼）

グループ討議の様子（チームハンギョドン）

発表の様子（チーム Let’s go 親子丼）

発表の様子（チームハンギョドン）

集合写真（チーム Let’s go 親子丼）

集合写真（チームハンギョドン）

みなさん、
ありがとうございました！

令和６年度 「高校生モニター会議」 会議録
令和７年２月

刊行物登録番号　６－１－110
編集発行　北区総務部区長室
東京都北区王子本町 1-15-22
電話　03(3908)1102